



英国ケンブリッジ大学留学便り

細井 徹 医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 薬学分野 治療薬効学 講師

私は現在、ケンブリッジ大学 Institute of Metabolic Science (IMS) の David Ron 研究室に留学しております。ケンブリッジ大学は、ロンドンから北へ電車で約1時間の人口11万人程の小さな町に位置する総合大学で、ノーベル賞受賞者などの著名な人材を数多く輩出しています。大学構内や町のいたるところには、中世の華麗な建築物が保存されており、万有引力の法則を発見したニュートンの肖像や

DNAの二重らせん構造を発見したワトソンとクリックが議論を行ったという逸話の残る店なども点在しており、歴史が感じられます。気候は夏でも暑過ぎず、図書館、博物館、公園も充実しており、勉学に励むのに最良の環境が整えられております。また、家は一軒家が主流で、それぞれの家が花や庭木などを熱心に手入れして趣向を凝らした庭を有しており、道を歩くだけでのどかなイングリッシュガーデンを楽しめます。

David Ron 教授は、小胞体関連遺伝子を同定、解析され、糖尿病の原因の一端として小胞体ストレスの関与を明らかにした、著名な先生です。当研究室では主に、小胞体ストレスの分子メカニズムを解明することにより病態の原因解明を手がけており、私も関連テーマで現在研究を進めているところです。研究所に初めて行って驚いたのは、研究室ごとの部屋はなく、すべての研究室の人は、一つの大きな部屋で実験を行っていたことです。従って、隣の研究室のメンバーともごく自然に交流が深まり、研究の相談から、他愛もない会話まで気軽にできるような環境にあります。このような環境のためか、多様な研究室間での共同研究も多く見受けられるように感じます。さらに各種実験機器も、実験効率が上がるように配置されており、とても良い研究環境であると言えます。また、イギリス人だけでなく、ロシア、インド、中国、フランス、イタリア、オランダ、イスラエル、ブルガリア等、実に多くの国から研究者が集まっており、国際色豊かな研究所だと言えると思います。もしかしたら、このような環境が、独創的な研究やアイデアを生む所以かもしれません。研究室のセミナーも充実しており、とことん議論を重ね、様々な視点からじっくり緻密に研究を展開していく姿勢が感じられます。したがって、研究の進め方、考え方について、学ぶことが多く、視野が広がるように感じており、毎日充実した日々を過ごしております。

最後になりましたが、このような留学の機会を与えて頂き貴重な経験をさせてくださっている小澤孝一郎教授ならびに関係者の皆様方に、感謝致しております。



私の所属するIMS外観